



『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

「学校訪問事業について」

太田雄貴会長の強い想いと千葉県庁からのご提案が相重なって、千葉県内の小中学校を日本フェンシング協会が訪問するといったプロジェクトが昨年末から始まりました。

オリンピック・パラリンピックへの機運醸成が主たる目的であり、主催する関係者の皆様あってこそそのプロジェクトであることは変わりません。しかし日本フェンシング協会は、このプロジェクトを通じて、オリンピックを超えて伝えたいことや実現させたいことがあります。

1. 伝えたいこと

まずは、フェンシングを知ってもらうことから、訪問イベントは始まります。訪問するオリンピックメダリストやオリンピックは、いつどういうきっかけでフェンシングと出会い、その後の日々をどのようにして積み重ねてきたかなどを話しながら、フェンシングの歴史や現在を紹介していきます。そして、オリンピックのような夢の舞台を目指すきっかけは、実は日常の中で見つけることができ、誰もが高い目標を目指す希望や未来を持ち合わせている、ということを伝えます。

次に、フェンシングを見てもらうこと。ここで、現役選手が登場し、迫力ある生のフェンシングの試合を披露します。先にあげたメダリストやオリンピックは解説者となります。そして若干名の生徒さんにも実際に競技を体験していただきます。「わかりにくい」と言われていたフェンシングへの先入観やイメージは、見方や捉え方次第で、実際にやってみることで変わるということをお話しします。

最後に、フェンシングの応援を体験してもらうこと。これが、イベントを成功させるための根幹となっています。会場にいる全員に、今度はいずれかの選手を、心から声を出して応援していただきます。目一杯の応援が、選手にとってとても大きな力になるということを実感してもらいます。

現役選手の皆さんも、できるだけ自身を応援してもらえるように生徒の皆さんに働きかけます。全力で応援されることの喜びを感じながら、もらっている声援を自分のパフォーマンス向上に変換していきます。フェンシングのアスリートとして、見ていただいている方々の目の前で今できることは何か、伝えられることは何か、新たな自己発見をする機会となります。

2. 実現させたいこと。

訪問先が変わるたびに、当然のことながら会場の環境も変わります。日本フェンシング協会は、訪問先によって提供するイベントの質や伝えたいことが都度ぶれないように心がけています。

いかなるイベントにおいても、一流の選手たちが安全に、そして思い切りフェンシングを披露できる環境を作っておくこと。全ての小・中学生へ上質の音響や観戦環境を届けること。実はこれらをたった一人のテクニシャンがゼロから整えて実現させています。

また、ご協力いただいている千葉県をはじめ地方自治体・県フェンシング協会・訪問先学校との調整、忙しい現役選手の確保、協会にノウハウを残すためには欠かせない写真撮影や事後報告など、多岐に渡ったタスクを、協会所属のオフィサーが一人で真摯にこなしています。

そして、太田会長率いる日本フェンシング協会が伝えたいことを、その場にいる皆さんへ確実に届けるために、進行全体を司る MC にはプロフェッショナルのスポーツ DJ にご尽力いただいています。学校ごとに異なるスクールカラーを即座に把握し、会場全体の雰囲気や温めてまとめあげながら、一人一人の心を突くように、大切なメッセージをたくさん届けてくださいます。

この3名を軸に、当日の設営をお手伝いして下さる皆様、迎え入れて下さる教員の皆様、主催者の皆様とで、必要最低限のマンパワーとチームワークを作り上げ、質の落ちないイベントを都度成功させています。

現在、千葉県内 11 校の訪問が実現しました。協会のビジョンである「心を突け」をモットーに、千葉県での継続開催はさることながら、他の都道府県においてもこのような訪問プロジェクトが広がっていくことを願っています。